

# 2013年12月期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社

**JASDAQ**

証券コード:4572

# 会社概要



■会社名: カルナバイオサイエンス株式会社  
(英文社名: Carna Biosciences, Inc.)

(2013年12月31日現在)

■代表者名: 代表取締役社長  
吉野公一郎

■設立: 2003年4月10日  
(日本オルガノンからスピノフ)

■上場日: 2008年3月25日(JASDAQ NEO)  
■上場市場: 東京証券取引所JASDAQグロース

■資本金: 26億0,272万円

■発行済株式数: 82,650株(平成26年1月1日現在は8,265,000株)

■株主数: 7,257名

■役員及び従業員数: 役職員61名

■所在地: 神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA 3F (ポートアイランドの神戸医療産業都市内)  
(最寄り駅: ポートライナー 医療センター駅 徒歩1分)

■監査法人: 有限責任監査法人トーマツ

■事業内容: キナーゼをターゲットとした創薬事業および創薬支援事業



神戸バイオメディカル創造センター(BMA)

# 2013年度 連結経営成績の概況



## 前期比で大幅改善

- ✓ 売上高は、対前期比 51.0%増
- ✓ 営業損益は、売上高の増加、売上原価率の低減等により、前期より 157百万円の改善
- ✓ 経常損益は、営業損益の改善により、前期より 166百万円の改善
- ✓ 当期純損益は、経常損益の改善により、前期より 167百万円の改善

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2013年12月期実績 (a)	771	△300	△276	△282
2012年12月期実績 (b)	510	△457	△442	△449
対前期比 (c)=(a)-(b)	+260	+157	+166	+167
対前期増減率 (c)/(b)	+51.0%	—	—	—
2013年 計画値 (d)	760	△306	△286	△290
対通期計画比 (a)-(d)	+11	+5	+9	+8
対通期計画比 (%)	101.5%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 当期通期計画値は、2013年12月20日発表の修正後の通期計画に基づいております。

(注3) 対通期計画比における「営業利益」「経常利益」「当期純利益」の値は、それぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

# 2013年度 事業別業績の概況



(百万円)

	売上高			営業利益		
	創薬支援 事業	創薬事業	計	創薬支援 事業	創薬事業	計
2013年12月期実績 (a)	771	—	771	249	△549	△300
2012年12月期実績 (b)	510	—	510	46	△504	△457
対前期比 (c)=(a)-(b)	+260	—	+260	+202	△45	+157
対前期増減率 (c)/(b)	+51.0%	—	+51.0%	432.2%	—	—
2013年12月期(修正)通期計画 (d)	760	—	760	244	△551	△306
対通期計画比 (a)-(d)	+11	—	+11	+4	+1	+5
通期計画に対する達成率 (a)/(d)	101.5%	—	101.5%	101.9%	—	—
2013年12月期(当初)通期計画 (e)	755	400	1,155	187	△182	4
対通期計画比 (a)-(e)	+16	△400	△383	+61	△367	△305
通期計画に対する達成率 (a)/(e)	102.2%	—	66.8%	132.9%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) (修正)通期計画値は 2013年12月20日発表の通期計画に基づいており、(当初)通期計画は2013年2月8日発表の通期計画に基づいております。

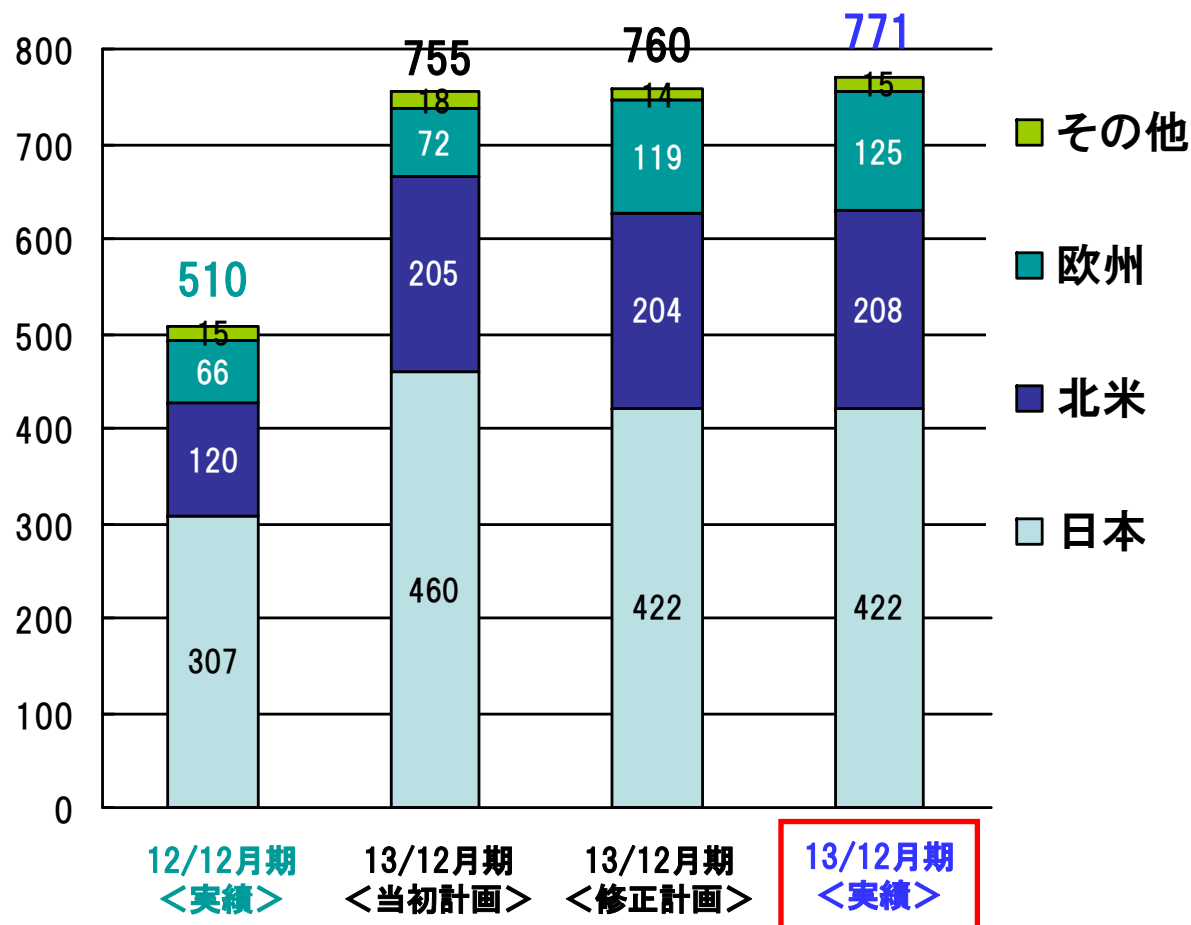
(注3) 対通期計画に対する進捗率における、「営業利益」の値は損失を計上している場合数値を表示しておりません。

# 2013年度 地域別売上高(創薬支援事業)



## 地域別売上高(連結)

(百万円)



創薬支援全体の売上は  
前年同期比 **51.0%増**

- ・**国内**は前年同期比 **37.3%増**  
⇒プロファイリング・スクリーニングサービスの大幅増加  
⇒RPPAサービスの立ち上がり
- ・**北米**は前年同期比 **72.2%増**  
⇒プロファイリング・スクリーニングサービス、セルベース・アッセイの大幅増加  
⇒タンパク質販売も順調な売上増  
⇒円安ドル高の影響
- ・**欧州**は前年同期比 **87.7%増**  
⇒キナーゼタンパク質、アッセイ開発、セルベースアッセイで売上大幅増
- ・**その他**は前年同期比 **0.8%減**  
⇒タンパク質販売の伸び悩み

為替レート(US\$): 78.65円      80.00円      80.00円      97.03円  
 海外売上比率: 39.7%      39.1%      44.5%      45.2%

## 2013年度に当社グループと取引のあった顧客数

(単位:顧客数)

	国内顧客	北米顧客	欧州顧客	その他	合計
2013年12月期 (A)	65	76	55	13	209
2012年12月期 (B)	63	82	56	14	215
増減 (A)-(B)	+2	△6	△1	△1	△6

(注1) 各期において売上を計上した顧客数を表示しております。

(注2) 同一顧客に対して複数回売上が計上された場合も1顧客として計算しております。

# 研究開発費および設備投資について



(単位:百万円)

		2013年12月期	2012年12月期
研究開発費	創薬支援事業	9	2
	創薬事業	414	374
	計	423	376
設備投資		7	38
期末人員(連結)		52人	52人

(内訳)

研究開発費:化合物の非臨床試験費用(化合物の最適化、高次評価及び前臨床費用並びに創薬基盤技術の強化

設備投資 :本社電話設備更新、研究開発用の研究機器

# バランスシートの状況(連結)



(単位:百万円)

	2013年12月期	2012年12月期	増減額	増減理由
流動資産	1,361	913	447	
現金及び預金	1,067	654	412	第14回新株予約権の行使+596等
その他	293	258	35	売掛金+34等
固定資産	527	203	324	ProbeX(のれん+245、特許権+35) 投資有価証券(クリスタル・ゲノミクス社)増等
資産合計	1,888	1,116	772	
流動負債	129	109	20	未払金+15等
固定負債	161	126	34	繰延税金負債+25等
負債合計	291	236	55	
純資産合計	1,597	880	717	資本金+331、資本剰余金+604、利益剰余金△282等
負債・純資産合計	1,888	1,116	772	

自己資本比率	84.1%
一株当たり純資産	193.3円
PBR(株価純資産倍率)	3.86倍
(参考)当社株価	742円

(注1)当社株価は東証JASDAQグロースにおける各四半期末日における終値に基づいております。

(注2)株価および一株当たり情報は、平成26年1月1日を効力発生日とする株式分割を反映した数値となっています。



## 主な研究パイプラインの研究ステージ

2013年12月末現在

キナーゼ (対象疾患)	非臨床	臨床試験 (治験)	承認 申請	上市
TNIK (大腸ガン)				
CDC7/ASK (ガン)				
BTK (免疫炎症疾患、ガン) リウマチ				
DYRK1A (神経変性疾患) アルツハイマー病				

### 研究パートナー



### 当社独自研究テーマ



## ラクオリア創薬とのキナーゼを標的とした創薬研究に関する 共同研究契約締結のお知らせ

平成25年3月22日公表



### キナーゼ阻害剤の創薬共同研究

日本ファイザー社中央研究所  
スピノフバイオベンチャー

キナーゼ阻害剤候補  
低分子化合物の提供



キナーゼアッセイ系  
の提供+プロファイ  
リングの実施

2008年設立 本社:愛知県

本契約により創出された新薬の権利および製薬企業等へのライセンスアウト等により得られる収益は、ラクオリア創薬とカルナバイオサイエンスの両社で共有。

## 行使価額修正条項付き第14回新株予約権による資金調達

発行日	平成25年6月17日
発行価額	1個当たり 1,350円
発行数	12,000個 (12,000株【1,200,000株】)
発行価額の総額	16,200,000円
割当先	メリルリンチ日本証券株式会社
行使期間	平成25年6月18日 ~ 平成27年6月17日
当初行使価額/ 下限行使価額	133,500円(1個当たり) 93,450円(1個当たり)
当初調達資金	1,605,200,000円(手取概算額)
調達資金の主な 使途	当社創薬研究テーマに係る非臨床試験及びその付帯費用(非臨床試験の高度化、迅速化) 1,405百万円
	新たな研究テーマを創出するための研究開発費用及びその付帯費用 200百万円
平成25年7月末 までの行使状況	行使累計数 6,349個 (対発行総数割合:52.9%) 残数 5,651個 累計行使価額 596,614千円

(注)【 】内の値は平成26年1月1日の株式分割(100分割)後のもの

# 2013年12月期のトピックス



平成25年10月1日付簡易株式交換によるProbeXの完全子会社化（平成25年9月4日公表）



(平成25年9月19日公表)

## 京都大学との共同研究がJST事業に採択

研究成果展開事業(先端計測分析技術・機器開発プログラム)  
開発課題: 「キノームの活性プロファイル法と制御技術の開発」

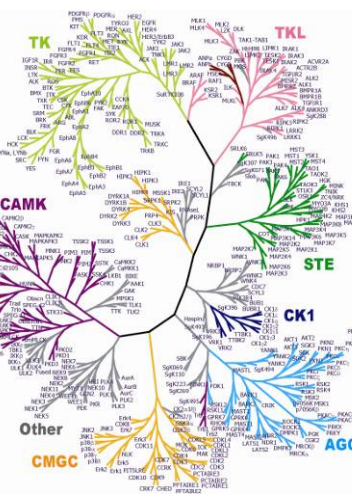
京都大学大学院薬学研究科(石濱泰教授)

- ・リン酸化ペプチド濃縮法であるヒドロキシ酸修飾酸化金属クロマトグラフィー法(HAMMOC法)
- ・高効率タンパク質抽出・消化法である相間移動溶解法(PTS法)



カルナバイオサイエンス株式会社

- ・高品質のキナーゼタンパク質(343種類)
- ・キナーゼプロファイリング技術



ヒトキノーム系統図

(取り組む技術開発)

- ・特異的かつ高感度な基質ペプチドの創出(約400種類)
- ・細胞レベルでのヒトキノーム活性プロファイリング技術の開発



個別化治療につながる  
コンパニオン診断への応用

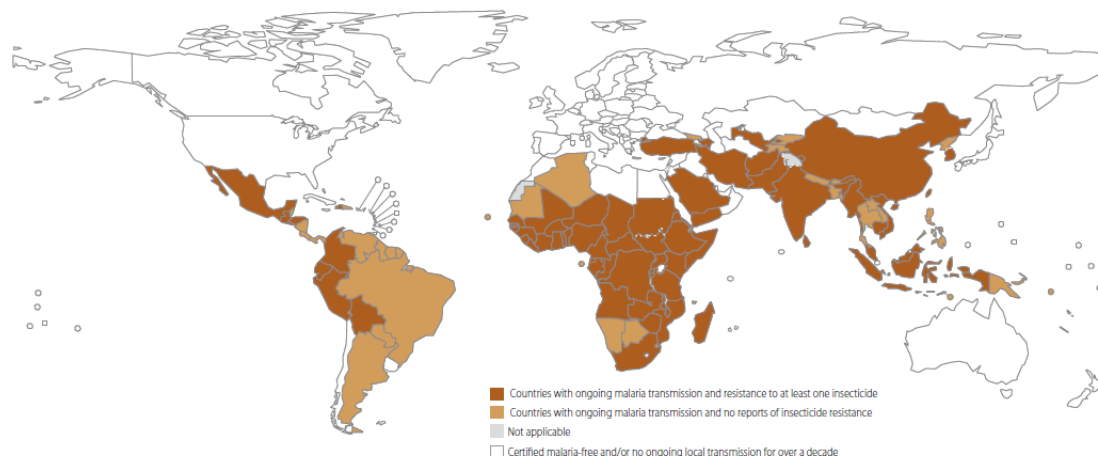
平成25年11月25日公表

## 北里大学 北里生命科学研究所との共同研究 A-STEPに採択

平成25年度第2回【産学共同促進】ステージ ハイリスク挑戦タイプ  
 研究課題名： マラリアキナーゼを標的とした新規マラリア治療薬の開発研究

### 日本初の新規抗マラリア治療薬の創出を最終目標とする

Figure 4.7 Countries with ongoing malaria transmission where insecticide resistance has been identified in at least one of their major vectors



Source: Adapted from Global Plan for Insecticide Resistance Management in malaria vectors, WHO, Geneva, 2012. From WHO regional entomologists in WHO Regional Offices and literature review by the Global Malaria Programme. Map production: Global Malaria Programme (GMP), World Health Organization

Countries with ongoing malaria transmission and no reports of insecticide resistance include countries with confirmed susceptibility to all insecticides used and countries where susceptibility testing is not currently conducted or results are unknown. The map provides no indication of how widespread resistance is within a country; therefore, a single report of resistance would be sufficient to mark a country as having resistance

出典: WORLD MALARIA REPORT 2012

(注)マラリアとは・・・熱帯から亜熱帯にかけて広く発生する原虫感染症

(単位:千人)

マラリア	罹患者数	死亡者数
アフリカ大陸	174,000	596
東南アジア	32,000	43
その他	13,000	21
世界計	219,000	660

WORLD MALARIA REPORT 2012 より再構成

## ➤ 株式分割及び単元株制度採用のお知らせ

平成25年11月22日公表

基準日：平成25年12月31日

効力発生日：平成26年1月1日

株式分割の割合：普通株式1株を100株に分割

発行済株式総数：8,265,000株（平成26年1月1日現在）

発行可能株式総数：30,000,000株（平成26年1月1日現在）

## ➤ 特許査定のお知らせ

TNIK キナーゼ阻害薬に係るヨーロッパ特許庁からの特許査定通知受領のお知らせ

平成26年1月10日公表

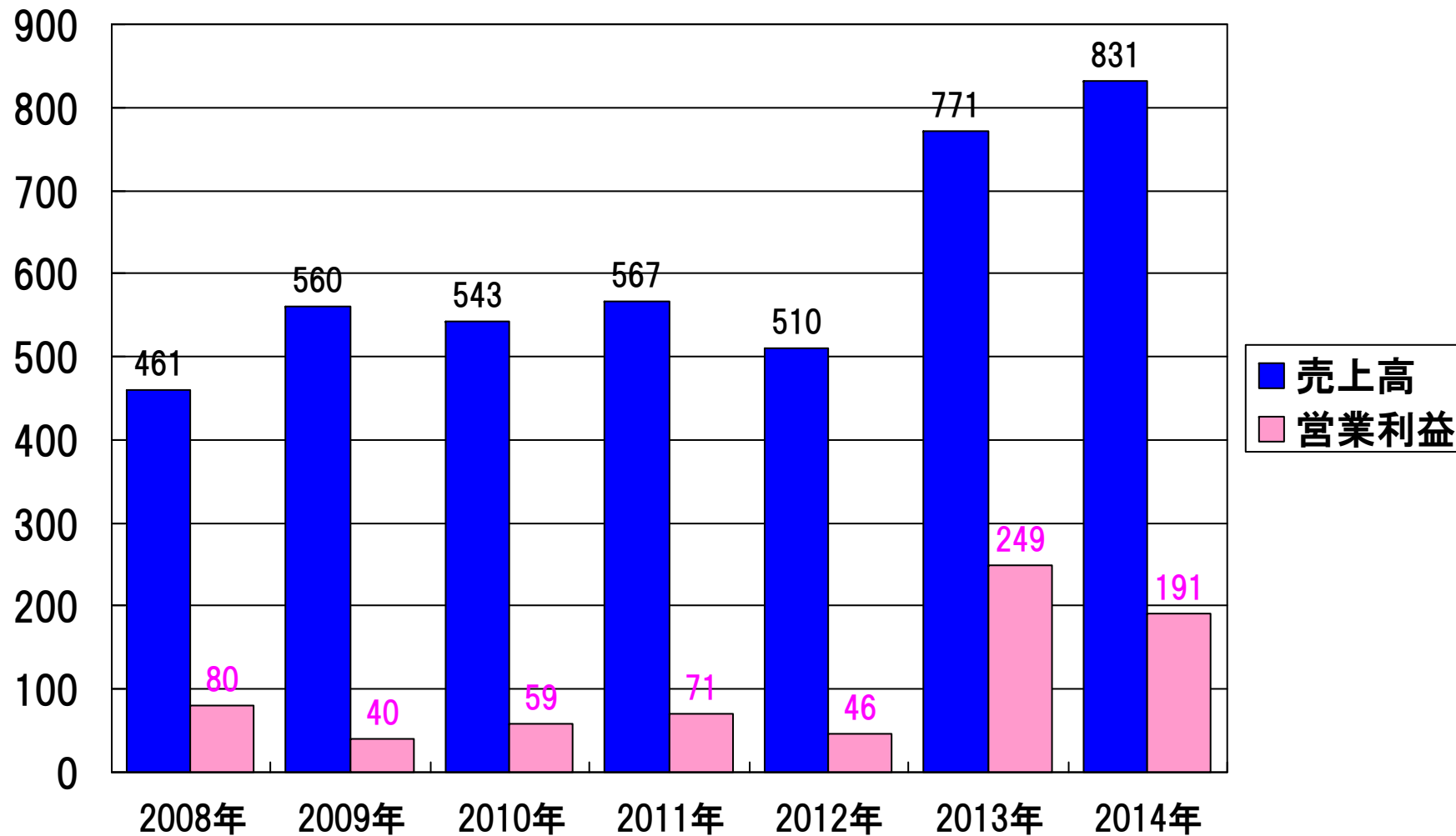
TNIK キナーゼ阻害薬に係る中国特許庁からの特許査定通知受領のお知らせ

平成26年1月22日公表

# 創薬支援事業 売上高、利益計画(連結)

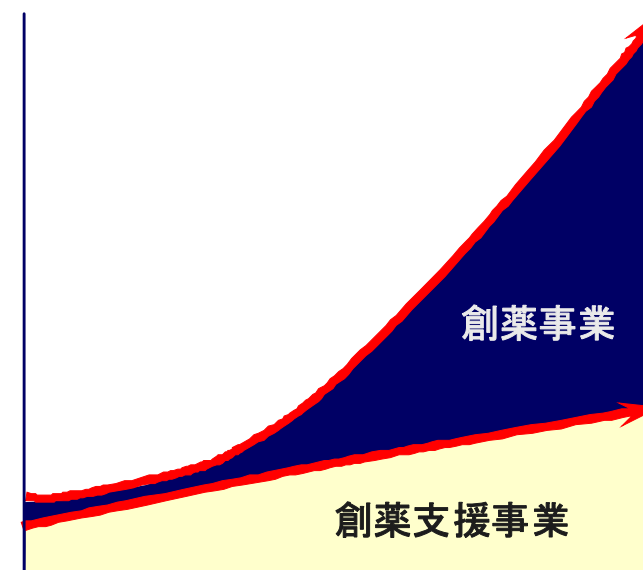


(百万円)

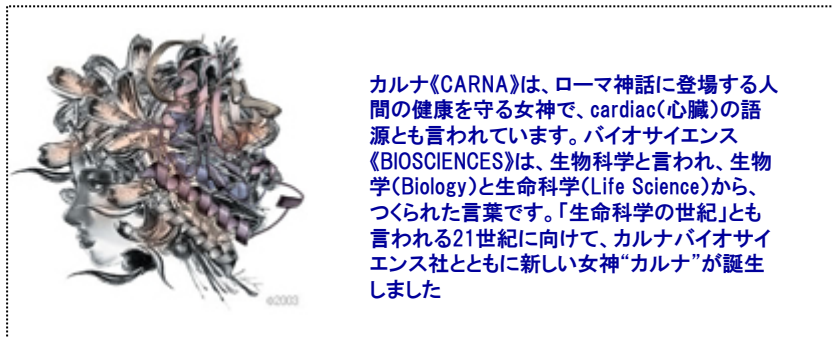




1. 当社の創薬事業は、従来の創薬ベンチャーとは異なり、膨大なコストと開発中止のリスクが高い第3相臨床試験(PIII)以降の段階は手掛けず、それ以前のいずれかの段階で大手製薬企業等に化合物を導出するビジネスモデルを想定しております。
2. 当社は創薬支援事業においては2006年12月期以降黒字化しております。今後も創薬支援事業での売上が伸びることで、2014年12月期には、会社全体として黒字化を目指します。
3. 当社は、ガンなどを対象疾患とするキナーゼ阻害薬の創薬研究をスピーディーに進めてまいりますが、一般的には、創薬の成果が実るには長い年月がかかることをご理解下さい。
4. 中長期的には成長トレンドにあるため、カルナバイオサイエンスの株式は、中長期的視野で保有していただきたく存じます。



今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARN》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac(心臓)の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物学と言われ、生物学(Biology)と生命科学(Life Science)から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社  
経営管理本部 経営企画部  
〒650-0047  
兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F  
Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665  
<http://www.carnabio.com/>  
ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。